

大地申第1号  
2016年7月6日

東日本旅客鉄道株式会社大宮支社  
支社長 阪本 未来子 殿

東日本旅客鉄道労働組合  
大宮地方本部  
執行委員長 森田勝美

## 「JR東労組大宮地本第17回定期大会」の発言に基づく申し入れ

大宮地本は、去る6月25日「第17回定期大会」を開催しました。大会では、JR発足30年、大宮支社発足15年を迎える中、事故の連鎖が止まらない現実や、本来業務を軽視していると言わざるを得ない事象が連続発生していることに向け合い、安全再確立と職務のプロづくりに全力で取り組むことを確認しました。

大宮運転区ファミリーデーにおいて参加した子供や訓練も受けていない免許不保持者が車両を運転した事象を受け、職場からは「おかしいと思っても家族が楽しんでいるのを見て何も言えなかった」等の声が出され、他職場でも「目立つ為に他と違ったことをやらなければ」との競争意識と「喜ばせたい」とのサービス意識に歯止めがきかず、安全が抜け落ちてしまっていることに対し危惧する声あげられています。従って、大きく世代交代が進む中、安全第一の職場風土の再確立を目指し、人材育成のあり方について労使で向き合い、安全を脅かし行き過ぎた自己啓発活動は中止し、見直すべきとの考えに至りました。また、職場では「ミスを起こしたらマイプロで取り戻す」と言われ、着任した新人が職務遂行に必要な技術も覚束ないうちに、マイプロをやらなければならないとの意識になっている現実を受け、まず今何をやるべきか明確にして、正しく教育・指導することが最たる課題であると考えます。

施策の検証では、駅の窓口閉鎖や駅遠隔操作システムによりサービスや異常時対応力が低下している現実や、京浜東北・根岸線乗務員基地再編成を含むダイヤ改正以降の課題として、長時間乗務や異常時対応等の問題が出されました。女性の職域拡大については、設備が十分に整備されていない中、配属されているなどの問題が依然として解消されていません。また「新たな再雇用制度」の運用についての課題や不満・不信を抱いているとの声も増加しています。

そして、現業・非現業共に様々な施策が実施されますが、体制のみが効率化され、職場は逼迫した要員問題を抱え続けています。

従って、施策の目的と職場現実に矛盾を感じ、将来への不安を抱えながらも、安全を基に会社経営を支えている組合員の苦闘に応え、真の安全・働きがいの持てる職場の創造に向けて、下記の通り申し入れを行いますので誠意ある回答を要請します。

### 記

1. 平成27年2月7日、社員の発意による委員会活動で行われた「大宮運転区ファミリーデー」において、参加した子供や訓練も受けていない免許不保持者が、車両を運転した事象に対する大宮支社の見解を明らかにすること。また、イベント等は安全管理体制を確立してからの実施とすること。

2. 自己啓発活動等での評価が気になり、職務に集中できていない現実に対する見解を明らかにすること。また、行き過ぎた自己啓発活動は中止・見直しを行い、本来業務に集中できる環境を基に職務のプロをつくること。
3. 平成13年8月22日に発生したトロ衝撃事故を受け「同行ダブルチェック体制」を確立し、今日まで実施してきた事に対する成果を明らかにすること。また、常磐緩行線松戸・北松戸間で発生した作業用トロと旅客列車が衝撃した事象を踏まえ、今後の課題について明らかにすること。
4. エルダー社員制度の運用における現状課題を明らかにすること。また、「新たな再雇用制度」に関する議事録確認を遵守し、出向先会社の提示の遅れや、就労条件の内容が詳細に伝えられていない実態を解消すること。
5. 女性設備の整備計画を示すこと。また、女性の職域拡大にあたり、女性用トイレ・寝室・浴室等の整備が不十分なまま配属されているため、早急に改善すること。
6. 新販売システム機能「旅とれ〜る店舗 web」導入後の成果・課題を明らかにすること。また、と列解消に向け教育等を充実させること。
7. 駅遠隔操作システム導入により、1人勤務になる被制御駅での異常時の駆け付けに対する考えを明らかにすること。また、駅利用者の安全確保と情報提供サービスを確保できる体制とすること。
8. 乗務員職場における指導担当は、人材育成と安全確保に重要な職務であるため、異動については指導内の業務実態と時期を十分に考慮すること。また、指導員として培った能力が十分に発揮できる箇所への異動とすること。

以 上